

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局障害福祉部障害者支援課
評価対象期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立若松ひまわり学園	施設類型	目的・機能
			I	— ⑦
	所 在 地	若松区原町12番34号		
	設置目的	障害のある児童を日々保護者の下から通わせて、社会的自立生活へ向けての援助、学習の指導、健康管理その他の支援を行うことにより、障害児の生活及び福祉の向上に資することを目的としている。		
利用料金制		非利用料金制 ・ <input type="checkbox"/> 一部利用料金制 <input type="checkbox"/> ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・ <input type="checkbox"/> 無	ペナルティ制 有・ <input type="checkbox"/> 無	
指定管理者	名 称	社会福祉法人北九州市福祉事業団		
	所 在 地	北九州市八幡東区中央二丁目1番1号		
指定管理業務の内容		児童発達支援センターの管理運営。 施設の維持管理。		
指定期間		令和3年4月1日～令和8年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		45
(1) 施設の設置目的の達成		25	4	20
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。				
② 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。				
③ 利用者のサービス提供計画に基づき、適切に福祉サービスが実施されているか。				
[評価の理由、要因・原因分析]				
障害児通所支援	[参考] R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
定員	30名	30名	30名	30名
利用者数	35名	35名	35名	35名
※ <input type="checkbox"/> …評価対象年度（以下、同じ）				
① ・発達障害児へのニーズ増大にあわせ、定員【30名】を超過して障害児通所支援を行っている。（国基準によると、定員の125%までは、適正なサービスを提供できるのであれば、受け入れは可能とされている。当該数値を超えない範囲での受け入れを行っており、アンケート結果および事故報告書においても、定員超過による影響は確認されない。）				
・保護者の利便性を考慮し、受け入れ時間を早めて園児を受け入れたり、降園時間後もお迎えに来られる時間まで預かったりすることで利用者の個々に状況に合わせて対応している。				
外来相談	[参考] R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	200件	160件	160件	160件
実績	219件	148件	138件	98件
短時間通園	[参考] R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	1,000件	1,300件	1,700件	1,900件
実績	1,129件	1,606件	1,833件	1,812件
保育所等 訪問支援	[参考] R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	100件	130件	110件	270件
実績	118件	157件	286件	306件

- ・外来相談と短時間通園は減少しているが、保育所等訪問支援が増加しており、これは保護者が直接依頼するのではなく、保育所や幼稚園から保護者に依頼して来園するケースが増加したためであり、地域の児童発達支援事業の中核である児童発達支援センターとしての役割を担っている。
- ②・学園の様子を地域住民に知ってもらうための広報誌（年3回）の配布のほか、ホームページの更新（年24回）を行い、情報発信に努めている。
- ・園の道路沿いの掲示板に「自閉症啓発デー」「医療的ケア児等支援情報サイト」などのポスターや園での行事を掲示し、地域の方に福祉の情報に加え、だれが見ても楽しめるよう園を広報した。

== 「施設の設置目的の達成」に関する評価まとめ ==

- ・発達障害児へのニーズ増大にあわせた通所支援における積極的な受け入れ、利用者の個々の状況に合わせた柔軟な対応、保育所等訪問支援における件数実績の伸びなど、積極的な取り組みにより、施設の設置目的を十分に達成していることから、評価「4」とする。

(2) 利用者の満足度

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	2 5	5	2 5
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤ 利用者の質の向上を目的としたボランティア等の活用が行われており、その効果があったか。			
⑥ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			

[評価の理由、要因・原因分析]

	【参考】R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
目標値	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
満足度平均	98%	99%	99%	97%
スタッフ接遇	98%	100%	96%	98%
情報提供	98%	100%	100%	98%
サービス内容	97%	98%	98%	96%
施設関係	99%	100%	100%	100%
緊急時	100%	100%	100%	94%

- ①・アンケート調査の結果について、満足度平均が97%以上と総合的に利用者の満足度は非常に高いものとなっている。

- ②・園独自のアンケートや懇談会の実施、また意見箱の設置や連絡帳の活用などにより保護者の意見や要望などを聞く機会を設けて、満足度向上に努めた。
 - ・新型コロナウイルス感染症予防のために保護者が行事を見られないことや、日頃の活動の様子が知りたいとの意見があったことから、写真を印刷して個人別に提供していたが、好評だったため、令和5年度も写真だよりとして連絡帳に添付して提供した。
 - ・家族の支援について、保護者勉強会を令和5年度は6回開催している。内容は年度当初に保護者会から学習したい内容の希望をもらい、それに合わせた講師を招いている。
 - ・保護者アンケートで希望があがったペアレントトレーニング（子育ての悩み解決プログラム）を延8回行い、保護者同士の交流にもつながってよいと好評であった。
 - ・家族の参加を促進するため、父親や兄弟が参加しやすい土曜日に行事（運動会・保育参観）を開催している。令和5年度は、運動会を全園児対象で3つのクラス分けで土曜日に開催し、また、保育参観の代替として廊下から見学する「保育見学会」を、土曜日も含めた5日間の期間を1回として、計3回開催し、少人数になるよう対策をとった。
- ④・家族への情報提供として毎月「園だより」「献立」を発行し、希望者には献立のレシピを提供しているほか、グループ活動のお知らせを年3回発行し、学園での療育を家庭に反映させるようホームプログラムを提供したりしている。
 - ・前年度に引き続き全園児を対象に、「感覚プロフィール短縮版」を保護者とチェックすることで、子どもの好む感覚・苦手な感覚を共有し支援につなげている。
 - ・卒園後の就学に向けた支援として、保護者への説明会を開催し、学校見学や学校への引き継ぎなど実施している。
- ⑥・前年度は中止していた家庭訪問を令和5年度は再開したが、感染の心配もあることから希望する保護者の家庭に限定して行った。

== 「利用者の満足度」に関する評価まとめ ==

- ・アンケート結果の「よい」、「まあまあよい」を合わせた割合は、目標値（90%）を大きく超えて平均97%と、利用者の満足度は非常に高く、評価「5」とする。

2 効率性の向上等に関する取組み	15		9
(1) 経費の低減等			
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。	15	3	9
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			

【評価の理由、要因・原因分析】

消費電力	【参考】R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
実績	21,141kwh	18,552kwh	19,527kwh	17,644kwh

水道光熱費	【参考】R2年度(更新前)	R3年度	R4年度	R5年度
予算	1,758千円	1,754千円	1,741千円	1,619千円
実績	1,487千円	1,234千円	1,232千円	1,066千円

- ① ・障害のある児童にとっては、天候の違いや温度変化などの環境変化にすぐに適応することが難しい場合などあり、経費削減に向けた取組みの効果がなかなか出ないこともあるが、こまめに温度調節や電源の切入を徹底している。
- ② ・清掃、設備保守点検等については、福祉事業団が一括契約を行うことで、経費の低減が図られており、業務は適切に行われている。

== 「経費の低減等」に関する評価まとめ ==

- ・指定管理者による一括契約等により経費節減を図っており、消費電力量及び水道光熱水費についても前年より低減させている。
- ・事業実績シートの障害児施設運営費全体について、予算額に対する決算額の比率は97.9%であり、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。

(2) 収入の増加

- ① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

— — —

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・提供するサービスは法定であり、報酬単価も国基準であるので、収入増加の工夫はできない。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み 3 5 2 1

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。
- ④ モニタリングの結果、施設の維持管理が適切に行われていたか。

1 5 3 9

【評価の理由、要因・原因分析】

- ① ・人員配置については指定基準に応じた人員が配置されており、施設の維持管理は適切に行われている。
- ② ・職場内研修（新人・専門・人権など）実施や、職場外研修（業務・給食・人権など）

及び自主研修など、職員の資質向上に努めている。また、指定管理者は複数の児童発達支援センターを運営しており、同法人の施設間で研修を行い、職員間の情報共有とスキルアップに取り組んでいる。

- ③・地域への支援として、保育所や幼稚園職員への勉強会の開催、区役所主催の行事への職員の派遣など行っている。
- ・同年齢の子ども達との交流を図るため、深町どんぐりの森保育所との交流を行っているが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。
- ・令和5年度は、「おひさまのいえ」（年13回）や「AIM元気のもり」「到津の森」を利用し園外保育を行った。

== 「施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況」に関する評価まとめ ==

- ・研修等による人材育成や職員の派遣等による地域連携を積極的に実施しており、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	20	3	12
② 施設の利用者に対する身体拘束及び虐待等の防止策が適切に実施されているか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 衛生管理及び感染症防止への対応が適切であったか。			
⑧ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

【評価の理由、要因・原因分析】

- ①・「事業団個人情報規定」「個人情報保護方針」に基づき管理徹底を行っている。
- ②・人権の尊重や身体拘束及び体罰の防止に向けて、「園児との接し方チェックリスト」を作成し、毎月クラス毎に態度や対応などの相互評価を実施している。
- ・人権研修や虐待防止委員会等を実施し、児童虐待対応リーダー養成研修に参加するなど人権の尊重、身体拘束及び体罰等の防止に努めている。
- ⑤・遊具や設備の点検を毎日実施。事故防止に向けて「ひやりはっと」を毎日朝礼で報告し、その場で対応を検討した。
- ⑥・防犯対策として、新型コロナウイルス感染症予防のため控えている警察署指導による不審者対応避難訓練の代替として、園内での訓練を年3回実施した。

- ・若松消防署協力による総合避難訓練の実施（年1回）。また、様々な事態を想定した避難訓練（火災：毎月、地震：年2回、竜巻：年1回、バス事故：年3回、不審者：年3回、風水害：年1回）も実施し、危機管理体制として、施設と事務局間で災害時の緊急連絡網、動員計画を作成している。

⑦・園児、職員とも手洗い、消毒を随時行なっている。また、各感染症予防のため手指の消毒液を設置している。

- ・感染症発生時には「感染防止マニュアル」に従い、速やかに対応するとともに、保護者にも携帯アプリ「コドモン」などを活用し、現在の感染者数を知らせて感染の予防に努めた。

== 「平等利用、安全対策、危機管理体制など」に関する評価まとめ ==

- ・利用者の安全確保、防災対策、個人情報保護等、市の求める一定の水準を満たしているため、評価「3」とする。

【総合評価】

合計得点	75	評価ランク	B
[評価の理由]			
<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画に沿って、施設の適切な運営管理を行っており、利用者の満足度も常に高いものとなっている。利用者に対してもサービスの計画を明確に示しており、個々の特性に合わせた支援を行っている。 ・利用者へのサービスの質の維持・向上に努めるだけでなく、情報提供や就学への援助、勉強会・懇談会の実施など様々な家族への支援を行っている。障害を抱える子どもたちの保護者は漠然とした将来への不安や育児の悩みを抱えており、その悩みや不安に対して、寄り添い、きめ細かいサポートを行っていることが利用者の満足度からも伺える。 ・研修の実施及び参加による職員の資質及び技術の向上や、情報管理の徹底、施設管理や節減対応などに努めている。 ・地域の保育所や学校との交流や職員派遣による支援など、地域との交流活動や支援など活発に行っている。 ・新型コロナウイルスやインフルエンザの感染予防を図りつつ、様々な工夫を施し、質の高いサービスの提供を継続した。行事の人数を分散して実施したり、代替の行事を実施したりするなど、利用者の気持ちに寄り添った支援に取り組んだ点も評価する。 			
[今後の対応]			
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営を適切に行い、利用者へのサービス向上に努めるとともに、家族への支援や地域及び関係機関との連携を積極的に行うなど、障害児支援に引き続き取り組むことを期待する。 ・近年、児童発達支援事業のニーズが増加しており、特に児童発達支援センターはどの施設も定員を超過している現状である。保育所訪問や講師の派遣など地域における児童発 			

達支援の中核施設として、引き続き役割を果たすことを期待する。

- ・若松ひまわり学園の分析だけでなく、地域の支援体制に対しての分析もしており、地域の障害児支援の中核施設として問題意識をもって取り組んでいることがわかる。地域の抱える障害児支援の問題に対して、地域と連携して解決していくことを期待する。

[北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見]
 適正に評価されている。
 今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

【評価レベル】

評価レベル	乗率		評価レベルの考え方
5	100%	良	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%		要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%		要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

- A：総合評価の結果、優れていると認められる
 (合計得点が80点以上)
- B：総合評価の結果、やや優れていると認められる
 (合計得点が70点以上80点未満)
- C：総合評価の結果、適正であると認められる
 (合計得点が60点以上70点未満)
- D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる
 (合計得点が50点以上60点未満)
- E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる
 (合計得点が50点未満)